

目次

はしがき..... 稲垣恭子
瀧井一博..... i

序章 日本型憲法は海外展開するのか..... 瀧井一博..... i

——日本型教育からの教示——

- 1 憲法史のグローバルヒストリーと日本..... i
- 2 『ネパールの伊藤博文』再読..... 4
- 3 「ネパールの伊藤博文」の滞日憲法調査..... 6
- 4 「ネパールの伊藤博文」後日譚..... 10
- 5 憲法支援のリソースとしての日本憲法史..... 12
- 6 日本型憲法の海外展開？——日本型教育が示唆すること..... 16

第I部 日本型教育——問題の所在

第1章 「日本型」教育モデルを提示することの困難と可能性……………高山敬太…25

——世界の教育の多元化に向けたリソースとしての位置づけ——

1 「日本型教育」——賞賛と悲観のはざままで……………25

海外からの賞賛とEDU-Portニッポン 対照的な国内の違和感と悲観論 「世界を牽引する

日本の教育」という見立ての浮上

2 「日本型」の構築とためらい……………29

光と影の二律背反 EDU-Portニッポンにおける日本型教育の曖昧さ 自己——他者の関係性

と「日本型」 二つの戦略の提案

3 社会間多文化主義に向けて……………33

国内差異を意識することの盲点 教育に国籍を与えることへの懸念 「厄介なこと」を行う

意義

4 教育のグローバル化と「日本型モデル」……………37

一つの成功モデルとして 均質化に歯止めをかけるリソースとして

5 普遍と固有の緊張関係を生かして……………39

第2章 日本型教育を哲学する試み……………瀬平劉アントン 門前斐紀…45

——京都学派が捉える教育の現在——

1 西田幾多郎——「二種の形成作用」としての教育理解……………46

第3章 公教育と私教育……………井上義和…67

2	木村素衛——「形成的表現的自覚」の徹底としての教育理解	50
3	和辻哲郎——個人性と全体性の人間学と教育論	54
4	森昭——個人と間柄の生成過程	58
5	京都学派から日本型教育論を考える	61
1	一九六二年の八千代台と一九七九年の津田沼	67
2	「車の両輪」と「棲み分け」	72
3	なぜ塾は教育界の日陰者とされたのか	75
4	小使・女給・私生児——塾の起源に刻印された三つのステイグマ	79

コラム1 テクノクラートの「知」の淵源……………竹内里欧…88

——瀧井一博『渡邊洪基——衆智を集むるを第一とす』に寄せて

第Ⅱ部 歴史のなかの日本型教育

第4章 明治維新における教育の模索……………齊藤紅葉…97

——長州藩、木戸孝允による出版への着眼を通して——

1 長州藩における出版の基盤 98

明倫館学頭山県太華の蔵版 『英国志』

2 国内一致と体制変革への出版の利用 99

『防長臣民合議書』 対外情勢への冷静な視線と倒幕への煽動 「青史」への意識

3 出版と教育の相互作用への模索 104

集権国家と普通教育 『国学入門』 『論語』から『世界国尽』へ 『新聞雑誌』の刊行

4 地方分権への期待と混迷 109

岩倉使節団と出版視察 出版の利点と危険性

5 晩年の「修身」教育論 112

第5章 日本における学年学級制の成立経緯…………… 柏木 敦… 116

—一つの「日本型」教育の淵源—

1 小学校における学級・学年分けの始まり…………… 117

「学級」の登場 学級という集団の性格づけ

2 学年始期の統一——四月始まりの学校暦の全国的採用へ…………… 121

第二次小学校令実施に伴う四月始まり 四月始まりの背景——会計年度と市町村の行政サイクル

3 学年学級制の成立と「形式年数主義」の誕生…………… 126

四月入学の定着と就学児童の増加 課程主義下における形式年数主義への移行

第6章 隅田川教養主義と本郷教養主義…………… 椎名健人… 134

—東京における東側世界—

1 東京の向こう端に浮かぶもう一つの片側…………… 134

西側だけが世界ではない話 「恥かしい」上京者と苛立たしい東京人

2 「山の手」と「下町」の文化的葛藤…………… 137

「上京者の山の手」と「東京人の下町」 下町町人の誇りと劣等感 永井荷風と谷崎潤一郎

3 本郷式教養主義と隅田川式教養主義…………… 142

東の果てに咲く、もう一つの知的世界 『三四郎』的ビルドゥングと『すみだ川』的ビルドゥング 「恥かしい」東京人の自己形成

4 東京人至上主義と「型」の問題…………… 146

仲間外れにされた九州男児 敏、荷風、谷崎の文学的系譜 隅田川教養主義と「型」の問題

第7章 政治教育協会と戦前日本の主権者教育……………西田彰一…154

——水野鍊太郎の取り組みを中心に——

1 現代日本と主権者教育……………154

学校教育における主権者教育の進展 明るい選挙推進協会 研究史についての問題点

2 政治教育協会の発足……………158

水野鍊太郎とその普選観 政治教育協会発足時の様子 『政治教育講座』について

3 大正デモクラシー期における政治教育協会の評価と批判……………166

同時代の政治教育運動における政治教育協会の評価 同時代の政治教育運動における政治教育協会の批判 吉野作造の水野鍊太郎批判とその政治教育論

4 政治教育協会の意義と主権者教育への可能性……………170

政治における多角的なものの方の養成と水野鍊太郎 政治教育協会の活動停滞と選挙粛正運動への合流 政治教育協会から主権者教育を考える

第8章 「丸刈り」の誕生……………平松隆円…176

——戦争とロックンロールと教育と——

1 バリカンの登場……………176

「丸刈り」と「バリカン」 馬用のバリカンから人間のためのバリカンへ

2 戦争と髪形の関係……………181

武士と軍人の髪形 丸刈り、坊主頭といがぐり頭 戦争と髪形

3 学校における髪形……………187

旧制高等学校と髪形 意外に流行していたリーゼントスタイル リーゼントスタイルは不良

4	の始まり 一九七〇年代の不良認識 校則とリーゼントスタイルと丸刈り 丸刈りで不良化は防げたのか 196
---	--

「服装の乱れは心の乱れである」 アメリカにおける長髪の流行

コラム2	米国発SPSから問い直す「日本型」教育……………磯山麻衣…201
------	----------------------------------

——冷戦期における学生支援の受容史

第Ⅲ部 日本型教育の論じ方／問題性

第9章	制度の半歩外にある教育……………大澤 聡…209
-----	--------------------------

——三木清と三人の教師——

1	読書の獲得——寺田喜治郎の教え 209
---	---------------------

腰かけ教師の誕生 学校を渡り歩く 満洲での教育行政

2	進路の変更——速水滉の教え 214
---	-------------------

教育に費やした最盛期 速水滉の教育論 新カント派の時代

3	研究の確立——西田幾多郎の教え 219
---	---------------------

師弟の邂逅 三木清の読書論 「思索する人間」に触れる

4	「教育」と「研究」——分離策への批判 224
---	------------------------

大学改造をめぐる論争 制度の半歩外にある教育

第10章 「日本型」市民オペラから問われる教育の課題……………大田美佐子…229

——「正典」の鑑賞から実践へ——

1 日本の音楽教育の課題——問題だらけの日本の音楽教育？……………230

日本の音楽教育に向けられた批判的な眼差し——国の近代化と音楽鑑賞教育 「日本型教育」が照らし出すもの——輸出される日本型音楽教育 新しい鑑賞教育・アマチュア・学びのプロセス——経験としての音楽

2 「市民オペラ」——オペラと包摂社会……………234

オペラの包摂的な試みと教育的可能性 日本の音楽文化「市民オペラ」の背景——劇場なきネットワーク 日本の作曲家たちとオペラ 現在進行形の「市民オペラ」——市民オペラの体験から指揮者、ピアニスト、ボランティアに聞く 指揮者の役割と市民オペラ アマチュアとプロの協働について 市民オペラでの学び 音楽教育の課題からみる市民オペラ

第11章 台湾における二宮金次郎像……………許 佩賢…246

——脱植民地化という観点から問い直す「日本型教育」——

1 金次郎像から読み解く植民地教育の記憶……………246

2 公学校修身教科書にみられる二宮金次郎の教材……………248

国定修身書における二宮教材のねらいと特徴 台湾総督府編修の修身書における二宮教材「学問」の欠如とその意味

3 台湾における金次郎銅像の重層的な意味……………253

台湾における金次郎の銅像設置の概況 教化の道具としての金次郎の銅像 台湾人にとって金次郎の銅像が持つもう一つの側面

4 戦後台湾における金次郎像をめぐる記憶と脱植民地化の課題……………261

コラム3	教育における本質主義的語りを超えて……………	齊藤 智……………
	——心理学概念の実体化をめぐる考察……………	266

第Ⅳ部 様々な「日本型」

第12章	「日本型」民主主義をめぐる……………	宇野重規……………
	——中間集団に着目して——……………	275

1	民主主義に「日本型」が存在するか……………	275
---	-----------------------	-----

2	「日本型」民主主義の歴史的起源……………	277
---	----------------------	-----

『忘れられた日本人』から 日本と中国を比較する 丸山眞男と日本の中間集団

3	近代日本の中間集団——「結社の時代」……………	284
---	-------------------------	-----

トクヴィルから考える 近代日本における中間集団と民主主義 明治維新後の結社の時代とその終わり

4	「日本型」民主主義のゆくえ……………	289
---	--------------------	-----

第13章	日本型教育システムと政治家……………	待鳥聡史……………
	——首相の経歴から考える——……………	292

1	日本型教育システムとは……………	293
---	------------------	-----

2 学歴からの検討 294

明治憲法体制期 五五年体制期 ポスト五五年体制期

3 社会との乖離？ 299

三つの時期区分 なぜ「蜜月期」が生じたのか なぜ「乖離期」が生じたのか

4 日本型教育と政治の関係の行方 305

第14章 「日本型」法曹は誕生したのか……………大中有信…308

——法科大学院制度と「日本型」法曹——

1 法科大学院の誕生 308

初の専門職大学院 法科大学院の誕生

2 法科大学院の苦境 312

司法試験合格者数の低迷と計画の挫折 弁護士就職難？ 法科大学院というコスト 法

科大学院制度と法曹人口

3 日本型法曹と司法の特徴 317

法曹人口と法律家のニーズ セカンド・ベスト・ジャスティス 日本型法曹と法曹養成制度

コラム 4 アメリカのロースクール教育……………阿川尚之…325

——自分で考える力をどうやって身につけるか